

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月 日

【評価実施概要】

事業所番号	1274200151		
法人名	医療法人社団昭桜会		
事業所名	グループホームサクラピア		
所在地	〒270-1421	千葉県白井市白井436-2 (電話)047-498-0212	
評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	〒273-0048	千葉県船橋市丸山2-10-15	
訪問調査日	平成20年5月29日	評価確定日	平成20年6月13日

【情報提供票より】(平成20年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	人
職員数	19人	常勤3人, 非常勤	14人, 常勤換算 11.

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建て	1 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(260,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	16名	男性	0名	女性	16名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	4	要介護4	7		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 83歳	最低	71歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桜台メディカルクリニック 白井聖仁会病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は北総鉄道白井駅に近い幹線道路に面した住宅地の中に位置する、社員寮造りの落ちついた感じのする建物である。各階を単位に2ユニットで運営され、利用者は最高齢98歳の方がおられて平均83歳である。施設の理念は、「もてなし、快適さ、楽しさ」を掲げ利用者が「楽しくゆっくり暮らせる家」を目的にしている。職員は経験豊かなベテランが多く、利用者から安心してもらえるようにスキンシップを大切に接している。又、変化して行く利用者の体調に合わせた無理のないサービスの提供をしながら家族のように明るく過している。施設は医療法人が運営することからターミナルケアを行っており、全ての職員が最後まで献身的なケアに取り組んでいる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の指摘から、1)業務日誌、介護日誌に引継ぎの確認印を押す2)家庭的な食器を増やす事では、お箸を個人のものに変えた3)服薬管理では、チェック体制を変えて3回行なう4)研修の機会を増やす事では、外部研修を3回実施している。などの改善を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で検討されその中から1)車椅子利用者が増えてきているが、苦痛を与えないケア2)体力が低下してきた人のケアの見直し3)ターミナルに達した人への静かな見守り4)自治会との定期的な交流など4点を重点活動項目に上げて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は計画の段階であり、市役所、市の介護相談員、家族と一回目の開催の準備を進めている。現在介護相談員が毎月2回施設に来て、市とのパイ役を果たしている。今後は運営推進会議開催の中で、施設の運営全般やターミナルケアの取組みなどを話し合いながら会議の定着と成果を期待する。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの相談は職員が話を聞いて改善をしている。家族からは、リハビリテーションを強く要望するような事もあるが、職員は利用者の変化する体調に合わせて無理ないようにするなどして対応している。家族全員に利用者の状況を毎月サクラピア通信で細かに説明している。苦情対応については、重要事項説明書に責任者を記載している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市の福祉センターが企画する行事、ふれあい祭り、敬老会、地域の花見の会などで交流を深めている。又、施設内では地域の方のボランティアによる、オカリナ、マンドリン演奏、踊りの会による舞踊などが活発に行なわれている。施設としては今後自治会と交流を進めてケアの方法などの話をしたい考えである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p style="text-align: center;">理念に基づく運営</p> <p style="text-align: center;">1. 理念と共有</p>					
1	1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>施設の理念は、もてなし・快適さ・楽しさの3つを基本として、利用者が「楽しくゆったり暮らせる家」である事を掲げて目標としている。</p>		
2	2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>各フロアーには理念を掲示している。職員は、毎月のカンファレンスと毎週のミニカンファレンス及び毎日のミーティングの折に理念の考え方を共有している。今年度は、理念実現に向け、安全に留意し、利用者に対し声掛けを行なうことに取り組んでいる。</p>		
3	5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>利用者は、市の福祉センターのふれあいまつり、敬老会、地域の花見の会などに参加をしている。又施設では、町内からボランティアとしてオカリナ、マンドリンの演奏会、踊りの会による舞踊などが催されていて利用者は大変楽しんでいる。</p>		
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は全員で話し合いまとめている。その中から(1)車椅子利用者に拘束をせず苦痛を与えないケア(2)体力が低下した人のケア見直し(3)ターミナルに達した人への静かな見守り(4)自治会との定期交流などを重点活動項目として取り組んでいる。</p>	○	<p>取り組んでいきたい内容から重点活動項目を決めているが、具体的な内容はまだまとめられていない。職員と話合いながら詳細の計画をまとめて、活動が更なるサービスの向上に繋がることを期待する。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の設置は、計画に留まっている。現在市役所、市の相談員、家族とが集まる1回目の実施に向けて準備を進めているところである。</p>	○	<p>運営推進会議は関係する各部門の方の協力と、理解を得られるように一層の努力が必要である。同じ法人内のグループホームで最初に開催するまでの苦労などを参考に、今後の開催の定着と活動の成果を期待する。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護相談員が毎月2回来て利用者と話あいながら状況を確認するなど行政とのパイプを果たしている。ふれあい祭りなどに参加している。又、市の窓口と入所についての協議もあり、他の自治体からの緊急入所を受け入れた例もある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者には、毎月サクラピア便りとして一人ひとりの事業所での生活状況を細かに知らせている。又金銭は、小遣い明細書をつけて家族に知らせている、小遣い明細には細かな品目を記入して家族が分かり易いように気をつけている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情として受けたものはないが、相談ごとは職員がそれぞれ聞いて対応している。リハビリを本人は嫌がるが家族は強く希望するケースについては、体調を見ながら無理のないよう行なっている。要望の強い歩行困難な人の散歩は見守りながら行なっている。</p>	○	<p>家族の相談、意見は施設で業務の中に加えて実施しているが、改善記録として残されていない。今後家族にも改善内容を説明して記録をされるよう希望する。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の退職などで利用者が混乱することが無いように、職員はユニットの担当は分かれているが、両ユニットの利用者の状況を把握するようにしている。管理者の交代においても、内部から配置するなど配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、外部の研修に参加している。昨年は、身体拘束廃止及び虐待防止の研修と管理者研修を受けている。今年度は認知症研修とユニットリーダー研修に参加を予定している。その後内部研修会を行う予定である。職員からは、機会があれば外部研修を受けたいとする積極的な意欲があった。	○	研修は外部研修に参加することが中心で機会を作っている。今後の人材確保が厳しい中で優秀な職員を維持するためには、目標を明確にした教育計画を立てて継続した人材育成をされるよう期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域でのグループホーム間の交流は行われていない。法人の中の各施設の代表が定期的に集まった時に、管理者、職員も参加してテーマ毎に事例などを話し合っている。千葉県のグループホーム連絡会に加入しており、参加した時の内容は施設の中に伝えている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時は、施設から管理者、職員2名で状況を確認して体験入居をしている。家族とは3~4回話し合う。早く馴染むために職員は、スキンシップを第一に何でも言って貰える雰囲気をつくり、利用者に安心感を与えるようにしている。会話が難しい人には、利用者の安心した笑顔を引き出すように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の多くは、コミュニケーションをとるのが難しい状況にある中で、職員は、食事後、おやつのあるいは居室でのくつろぎ中に、会話や声かけを行うことによって、本人の気持ちを捉え、一人ひとりの生活に潤いを持てるように努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の中には、自らの希望により、それぞれ習字、折り紙、お絵描きなどを行なう者がいる。これらのものには、本人との会話の中で、意思疎通が困難なものについては、家族の話などを参考にして暮らし方の希望や意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、入所時のアセスメント、とりわけ家族の意向や家庭での生活状況を捉え計画を策定している。計画書は、項目ごとに目標、援助の内容、頻度、期間が明瞭に記入されている。計画作りにあたっては、デイサービスのケアマネージャーの参画を得、また家族には計画書を説明し同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>2ヶ月に1回計画の見直しを行っている。職員全員が集まるカンファレンスにおいて、個々に検討をしている。症状の変化が大きくあった者については、病院の診断結果などを家族に説明し、家族の意向を捉えて計画の変更を行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>同一法人が運営するデイサービスに定期的に通う利用者もいる。大きい浴槽による入浴を楽しんだり、リハビリを行ったりしている。又近隣の病院にて治療を必要とする者に対しては、付き添い、送迎をするなど利用者を支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>法人が経営するクリニックの医師が主治医となり連携を図って健康管理に努めている。利用者の入所時には、従来からのかかりつけ医のもとに、家族が付き添って通っていた例が多いが、いずれの場合も連絡は密にしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期のあり方については、積極的に家族の意向を捉え、対応することとしている。入所時並びに体調の急変がみられる時に、入院して処置を受けるか最後までホームで生活するかを具体的に話し合いを行っており、ターミナルケアとして看取った具体例は多く、職員も全員が熱心に対応した。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの配慮として、個人情報同意書で秘密保持の誓約を職員から徴している。羞恥心との配慮は、ドア、カーテンの扱いや入浴や排泄介助の時などに留意している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の日課は、全員が画一的のものになっていない。一人ひとりの体力の違いによるペースに合わせて行うこととしている。介護計画の中の日課計画表(タイム)の記載を見ると一人ひとりが異なるスケジュールになっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	若干のあとかたづけの仕事を除き食事の準備や調理に携われるものはないと見ている。食事は食堂にて大勢で行っている。職員は介助のための参画となっている。食事後は、出来るだけうちとけてた会話や声かけの時間にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回入浴としている。建物がかって独身寮として使われていたため、各居室には浴室があり臨機応変に入浴をさせている。また、2、3人はデイホームに車で出かけ広い湯船の入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	少しでも張り合いや喜びを感じてもらうように、ボランティアによる日本舞踊の観賞など、日常的にはボール遊、お絵描き、折り紙、オセロなどを楽しんでいる。又、日課の中で庭掃除、モップ掛け、茶碗洗いなどの手伝いをして貰うこともある。	○	利用者の役割や楽しみごとの支援は、工夫をして行っているが、更にこれらの機会を増やし内容を拡大して、リズムのある生活を過ごせるように努めることを期待する。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設に、スペースの広い裏庭があり、戸外で過ごしたり散歩をするようにしている。外出は、買い物などで毎週2回出かけていて、車椅子の人は自動車と同じように出かけている。	○	家族からは、外出を更に増やして欲しい希望がある。職員の負担は増して大変とは思いますが、今後は家族にも協力を呼びかけて外出の機会を増やすように検討されることを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は常時かけている。門を出ると交通量の多い道路になるため安全を考慮しての措置と見ている。外来者にはインターホンでの対応であるが、家族の訪問が少ないときでも毎日4名ぐらいおり、出入りは不自由ではない。各個室には鍵を使用していない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災受信機・火災通報装置は設置している。避難訓練は年2回、地元消防署と合同で実施している。地域の住民には避難訓練実施を連絡して理解をしてもらっている。施設内には避難経路図が分りやすく掲示されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立及び昼夕食の調理は、外部の業者が行っている。献立は栄養のバランスを考えたものになっており、献立表でカロリーも把握できる。水分補給の時間は個人の日課表に示している。常食が困難なものにはミキサー食など調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が集まってくる食堂、リビングにはテーブルとともにソファが配置されておりゆったりとくつろげるように工夫をしている。壁面には書道など利用者の作品を掲示したりテーブルには季節の花を飾るなど雰囲気作りに努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、備え付けのベッドのほかにたんすなどを持ち込み工夫をした配置にしている。カーテンも各自が色や柄を選び用意している。自分のベッドやテレビ、仏壇を持ち込んでいる者もあり、居心地良く過ごせるよう配慮されている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。